

## 思考力・判断力・表現力を育てる学習指導の工夫 ～「書くこと」を中心とした言語活動を通して～

八重瀬町立具志頭中学校教諭 垣花奈留美

### I テーマ設定の理由

グローバル社会に生きる生徒にとって、視野を広げ、異文化を理解・尊重しながら、世界の人々と共存していくために、英語力は重要なツールの一つとして挙げられる。加えて、学校教育法の一部改正でうたわれている「生きる力」を支える資質・能力の向上も重要である。それを受け学習指導要領では、「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力」をはぐくむことが、基本方針の一つとして示された。

学習指導要領外国語科の目標は、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」と明記されている。「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、及び「書くこと」の四つの領域をバランスよく組み合わせた言語活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育成することが求められている。

小学校で外国語活動を経験してきた生徒は、「聞くこと」、「話すこと」には興味を示すが、「書くこと」に関しては興味が低いと感じることが多々ある。また、「書くこと」に対して抵抗感を感じている生徒も多く、定期テスト等の記述式問題への無解答が多い。これらの課題を解決するために、「書くこと」に興味を持たせる指導の工夫を図ってきたが、基礎的・基本的事項や文構造の定着に課題があり、学年が進むにつれて習熟の個人差が広がるばかりである。さらに、「書きたいこと」と「書けること」のギャップが大きく、既習事項を活用して、適切に書くことができない生徒が多い。

そこで本研究では、1日1英文を書く活動で、基礎的・基本的事項や文法事項の定着を図り、「書くこと」を中心とした言語活動としてフォトニュースを作る過程で、聞き手を意識した構成で紹介文を書かせ、生徒同士の相互交流の場を取り入れる。これらの取り組みを経て、自分の文章を推敲することで、思考力・判断力・表現力が育まれると考える。

以上のことから、「書くこと」を中心とした言語活動を通して、基礎的・基本的事項を定着させるための学習指導と、聞き手を意識した文章構成力をつけるための学習指導の工夫を行えば、思考力・判断力・表現力を育てることができると考え、本研究テーマを設定した。

### II 研究仮説と検証計画

#### 1 研究仮説

英語を書くことにおいて、基礎的・基本的な事項の定着を図り、内容や構成を考え、書く学習指導や発表の工夫を行えば、思考力・判断力・表現力がはぐくまれるであろう。

#### 2 検証計画

(1) 事前調査	・調査内容：英語に関する意識調査と実態テスト ・実施時期：11月	・調査方法：アンケート、テスト ・調査対象：具志頭中学校1学年76名	
(2) 検証授業	検証の場面（展開） ①授業のまとめとして、この時間で学んだ表現を使って英文1文を書く。教師が添削し、返却する。	検証の観点 ①文構造を意識して英文1文を書くことで、基礎的・基本的事項の定着が図られたか。	検証の方法 ・授業観察 ・ワークシート ・自己評価 ・他己評価

(2) 検証授業	②自分が選んだ写真について文章を書く。 ③相互交流を経て、自分の文章を見直し、原稿を完成させる。	②マインドマップで出た情報からキーワードを精選して、既習表現を活用して文章を書くことができたか。 ②聞き手を意識した構成で、まとまりのある文章を書くことができたか。 ③グループで文章をチェックし、互いの文章に感想やアドバイスを書くことができたか。 ③相互交流を受けて、再度文章を推敲し、聞き手を意識した構成で文章を完成させることができたか。	・発表原稿 ・発表態度
(3) 事後調査	・事前（11月）と事後（2月）の英語に関する意識調査と実態テストの比較・分析・考察 ・ワークシートや自己（他己）評価表の分析・考察 ・調査対象：具志頭中学校1学年76名		・アンケート ・実態テスト ・ワークシート ・自己評価
(4) 検証の視点	英語を書くことにおいて、基礎的・基本的な事項の定着を図り、構成や内容を考え、書く学習指導の工夫や発表方法の工夫は、思考力・判断力・表現力をはぐくむことに有効であったか。		・(1)(2)(3)の結果の分析・考察

### Ⅲ 研究内容

#### 1 思考力・判断力・表現力を育てる学習指導の工夫について

##### (1) 思考力・判断力・表現力とは

###### ① 今、なぜ思考力・判断力・表現力が叫ばれているのか

知識基盤社会と言われる今日、新しい知識・情報・技術が、政治・経済・文化をはじめ、社会のあらゆる領域での活動の基盤となっている。変化が激しく、未知の課題に試行錯誤しながら対応することが求められる社会だとも言える。こうした社会においては、他者と切磋琢磨しつつ、社会の変化に応じて、既存の知識・技能をもとに新たなアイデアを生み出し、それを実践できる人材が求められている。

しかし、平成19年に実施された全国学力・学習状況調査では、知識・技能を活用する問題について課題がみられ、学習指導要領では、学力の重要な3つの要素が明確化された。その3つの要素とは、

ア 基礎的・基本的な知識・技能の習得

イ 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等

ウ 学習意欲（主体的に学習に取り組む態度）

である。つまり、基礎的・基本的な知識・技能の習得と、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を車の両輪のように相互に関連させながら伸ばしていくことが示された。そのため、各教科の目標実現のために言語を通じた学習活動を充実させ、学力の3つの要素をはぐくむために、思考力・判断力・表現力を育成することの重要性が叫ばれている。

###### ② 外国語科の目標と外国語科における思考力・判断力・表現力

中学校学習指導要領解説外国語編（以下「解説外国語編」と表記する）において、外国語科の目標は「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。」とある。言い換えれば、外国語科は、コミュニケーション能力の基礎を育成する教科であると言える。そのため、生徒が身につけた外国語等を用いて、自分の考えなどを相手を意識して適切に伝えることにより、思考力・判断力・表現力を高めることが重要である。つまり、「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等を、自らの体験と結びつけながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信できるよう、4技能を統合的に活用する言語活動の中で、思考力・判断力・表現力は育成される。

中央教育審議会（2010）「児童生徒の学習評価の在り方」（報告）において、「（外国語科では）

学習指導要領の内容の示し方やこれまでの実践を踏まえ、『外国語表現の能力』『外国語理解の能力』を、学習指導要領の内容のまとまりに合わせ、基礎的・基本的な知識・技能と『思考・判断・表現』とを合わせて評価する観点として位置づけることが適当である。」と述べられている。このことから、表1に示す評価の4観点のうち、基礎的・基本的な知識・技能を踏まえながら、主として「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」の観点において、思考力・判断力・表現力を見取ることになる。

表1 外国語科の特性に応じた評価の観点及びその趣旨 (国立教育政策研究所)

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
趣旨	コミュニケーションに関心をもち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての意識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。

評価に関して横浜国立大学附属中学校英語科(2011)では、『思考力・判断力』についてはひとくくりに『考える力』と捉え、「思考・判断した結果である『表現』の部分の評価することとする。」とある。それに倣い、本研究における「思考力・判断力」の評価は、目に見えない思考や判断をした結果が現れる「表現」で見取ることとする。

(2) 学習指導方法の工夫について

① マインドマップの活用

マインドマップとは、表現したい概念(テーマ)をキーワードやイメージで紙の中心に描き、キーワードやイメージを放射状に広げながら、自分の考えを整理する表現方法である。トニー・ブザン氏は、この表現方法は思考を整理し、発想を豊かにするための手助けになると述べている。そこで、英語学習の「書くこと」においても、マインドマップの手法を取り入れ、英単語でマッピングさせることで、書きたいことを広げ、思考を整理させたいと考えた。さらに、マインドマップ上に広がる英単語から、聞き手を意識した文章を構成させたいと考えた。

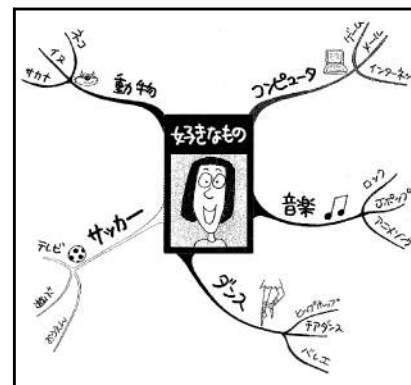


図1 マインドマップ 『勉強が楽しくなるノート術』より

2 基礎的・基本的事項について

学習指導要領には、下記のように基礎的・基本的事項についての説明が示されている。

(1) 解説外国語編に示された英語の目標

解説外国語編第2節英語1目標では、上述の外国語科の目標を踏まえ、英語の目標を具体的に設定している(表2)。

表2 英語の目標

(1) 初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。
(2) 初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。
(3) 英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。
(4) 英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。

4領域に分け、3学年間を通した目標を提示した意図は、各学校が生徒の実態に合わせて学年ごとの目標を設定し、3学年間でコミュニケーション能力の基礎を育成することを目指しているからである。

(2) 英語科における基礎的・基本的事項

英語科の基礎的・基本的事項とは、上述した外国語科の目標、英語の目標にあるように、4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成しながら、解説外国語編に示されている言語

材料（音声，文字及び符号，語，連語及び慣用表現，文法事項）を用いて，言語の使用場面で積極的な態度で英語を運用できることである。その際，基礎的・基本的事項を習得し，それを活用して課題を解決するためには，思考力・判断力・表現力をはぐくむことも重要となる。

### 3 書くことを中心とした言語活動について

#### (1) 解説外国語編に示された書くことの指導

上述の解説外国語編第1目標を踏まえ，第2各言語の目標及び内容等1目標には，書くことの具体的な目標として「英語で書くことに慣れ親しみ，初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。」と明記されている。これを受け，書くことについての言語活動は，3年間を通して表3のように行わせるとしている。

表3 「書くこと」についての言語活動

- |  |
|--|
| (ア) 文字や符号を識別し，語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。<br>(イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。<br>(ウ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり，感想，賛否やその理由を書いたりなどすること。<br>(エ) 身近な場面における出来事や体験したことなどについて，自分の考えや気持ちなどを書くこと。<br>(オ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように， <u>文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。</u> （下線筆者） |
|--|

(オ)の「文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと」は，「内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力が十分ではないという課題」に対応したもので，文と文の順序や相互の関連を意識し，「全体として一貫性のある文章」を書くことを指している。「特定の課題に関する調査（英語：「書くこと」）調査結果（中学校）」によると，「内容のつながりがよいもの」とは，①「話題の一貫性があり，他の話題に脱線していないもの」，②「同じ内容の文を，無用に繰り返していないもの」，③「内容理解に支障を来すような，語順・時制等の誤りがないもの」の全てに当てはまる場合だとしている。

そこで本研究では，既習表現や助動詞can/can't，疑問詞When，現在進行形の文構造等を活用する際，文字や符号を識別させ，語と語の区切りなどに注意させて正しく書かせたり，語と語のつながり等に注意させて正しく文を書かせることで，基礎的・基本的な事項の定着を図る〔表3（ア），（イ）〕。また，自分の考えや気持ち等が読み手に正しく伝わるように，文と文のつながりなどに注意して文章を書くために〔表3（オ）〕，聞き手を意識した文章構成力をつけるための学習指導の工夫を行うことで，思考力・判断力・表現力をはぐくむことができると考える。思考力・判断力・表現力をはぐくむために，基礎的・基本的事項を定着させることは車の両輪だととらえ，研究を進めていく。

## IV 授業実践

### 1 単元名 Chapter 3 Project フォトニュースを作ろう（Total English New Edition 1，学校図書）

#### 2 単元設定の理由

##### (1) 単元観

本単元であるチャプタープロジェクトは，Lesson 7～Reading 2のまとめとして，既習内容の定着を図ることを目的として設定されている。そこで，第1時～第5時では基礎的・基本的事項の定着に重点を置いた指導を行い，理解させる活動と定着させる活動をバランスよく取り入れたい。

その後，自分が選んだ1枚の写真について，構成を考えてフォトニュースを完成させるという書く活動に取り組む。さらに，それを音読して発表するという言語活動に取り組む。

自分で選んだ写真を活用することで，書くことに対して苦手意識がある生徒の学習意欲を喚起させたい。また，既習の表現を用いて自分が選んだ写真についての情報を書くことで，まとまりのあ

る英文を書かせたい。次に、聞き手を意識した音読の視点を提示し、その内容が表現されるような正しい音読ができるよう指導する。さらに、単元を通して、ペアやグループ活動を適宜取り入れる。お互いの原稿を読み合ったり、音読に対してアドバイスをし合うことで、再度、自分自身の表現を見つめ直させる。以上の言語活動を通して、本単元において、思考力・判断力・表現力をはぐくむことができる考える。

## (2) 生徒観

本校で行った実態テスト（2013年11月実施）において、基礎的・基本的事項（大文字・小文字の別、符号の使い方、語順整序等）の定着が不十分であり、構成を考えながら、相手に伝わりやすいように一貫性のある文を書くことに課題が見られた。

さらに、英語に関する意識調査（2013年11月実施）において、4領域のうち「書くこと」の領域を「苦手」または「ちょっと苦手」と感じている生徒は、57%いる。また、英文を書く時に困っていることは何かとの問いには、「語順が分からない」が最も多く、次いで「単語のスペルが書けない」「書きたいことがあっても単語が分からない」が挙げられた。

このことから、書く力を伸ばしたいという気持ちはあるものの、基礎的・基本的事項の定着に課題がみられ、書きたいことや伝えたいことがありながら、まとまりのある文章を書く力が弱いことが分かる。

## (3) 指導観

上記の実態から、基礎的・基本的事項の定着を目指した学習指導に取り組みながら、「書くこと」に対する抵抗感を少しでも減らすため、①継続したペア学習による活動を行い、既習表現の定着を図る、②前時の復習を行い、基礎的・基本的事項の定着を図る、③授業のまとめとして、その授業で学んだ表現を活用した英文を1文書く、④授業と連動した宿題を与える等を行う。

次に、①紹介したい写真を活用することで生徒の意欲を喚起し、②マインド・マップを使ってより多くの情報を書き出すことで思考を整理し、③辞書や教科書等を活用し、構成を考えながら正しい英文を書き、④グループ内で原稿を回し読みしてお互いに表現をチェックし合い、⑤語順やまとまりを意識して原稿を練り直し、⑥聞き手を意識した音読（強勢、イントネーション、区切り等）練習を重ねる。

さらに、単元を通してペアやグループ学習を適宜組み込むことで、生徒の学習意欲を喚起し、相互評価で新しい気づきを得る機会を設定する。

## 3 単元の指導目標（観点別評価規準）

### (1) 単元の目標

- ① 辞書や教科書等を活用し、意欲的に書く活動に取り組む。  
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ② 紹介したい写真について、構成を考えながら、まとまりのある文章を正しく書く。  
【(思考・判断・表現) 外国語表現の能力】
- ③ 聞き手を意識して、正しい発音で、相手が分かるように音読することができる。  
【(思考・判断・表現) 外国語表現の能力】
- ④ 発表を聞いて、内容を適切に理解することができる。【外国語理解の能力】
- ⑤ 正しい語順や語法を用いて文を構成することができる。【言語や文化についての知識・理解】

### (2) 評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
①辞書を活用するなどして、文章を書いている。 ②発表の場面では、聞き手に十分に伝わる音量で発話している。	①語順やルールに留意して、正しく英文を書くことができる。 ②文章の構成に注意しながら、まとまりのある文を書くこ	①発表を聞いて、全体の概要を適切に聞き取ることができる。	①助動詞can/can'tを用いた文構造を理解している。 ②疑問詞Whenを用いた文構造を理解している。 ③動詞-ing形のルールを理解して

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
	とができる。 ③聞き手に正しく伝わるよう、口頭で説明することができる。		いる。 ④現在進行形を用いた文構造を理解している。 ⑤正しい語順や語法を用いて文を構成することができる。

(3) 指導と評価計画

時	ねらい	学習活動	評価規準	評価方法
第1時	・助動詞can/can'tを理解する。	・助動詞can/can'tの意味と文構造を理解する。 ・口頭練習や練習問題に取り組む。 ・1日1英文(助動詞can/can't活用)	エ①	・活動の観察 ・ノート、ワークシート等 ・自己評価
第2時	・助動詞can/can'tを使って正しい文を書く。	・助動詞can/can'tを活用して英文を書く。 ・助動詞can/can'tを活用したコミュニケーション活動を行う。 ・1日1英文(助動詞can/can't活用)	エ① (2回目)	・活動の観察 ・ワークシート等 ・自己評価
第3時	・疑問詞Whenとその答え方を理解する。	・疑問詞Whenの意味と文構造、その答え方を理解する。 ・口頭練習や練習問題に取り組む。 ・1日1英文(疑問詞When活用)	エ②	・活動の観察 ・ノート、ワークシート等 ・自己評価
第4時	・現在進行形を理解する。 ・動詞の-ing形のルールを理解する。	・現在進行形の意味と文構造を理解する。 ・動詞の-ing形のルールを知り、発音練習をする。 ・口頭練習や練習問題に取り組む。 ・1日1英文(現在進行形活用)	エ③ エ④	・活動の観察 ・ノート、ワークシート等 ・自己評価
第5時	・現在進行形を使って正しい文を書く。	・現在進行形を活用して英文を書く。 ・現在進行形を活用したコミュニケーション活動を行う。 ・1日1英文(現在進行形活用)	エ③ (2回目) エ④ (2回目)	・活動の観察 ・ワークシート等 ・自己評価
第6時	・新出単語を理解する。 ・フォトニュースとは何かを知る。 ・マインドマップに英単語を書き出す。	・例題を聞いたり読んだりして、内容を理解できる。 ・教師のデモを聞いて、学習活動に見通しを持たせる。 ・マインドマップを使い、紹介する写真に関する英単語を書き出す。	ア① (1回目) ア① (2回目)	・活動の観察 ・ワークシート ・自己評価
第7時 本時	・自分が紹介したい写真について、既習表現を活用して、聞き手を意識した構成でまとまりのある文章を書く。 ・グループで文章をチェックし、互いの文章に感想やアドバイスを書く。 ・相互交流を通して、再度文章を推敲し、文章を完成させることができる。	・マインドマップに書き出した英単語を精選して英文にする。 ・書いた文をグループで回し読みし、互いにチェックを入れる。 ・推敲し、原稿を仕上げる。	イ① イ②	・活動の観察 ・ワークシート ・自己評価
第8時	・発表に向けて音読練習をする。 ・グループに分かれて発表会を行う。	・聞き手(姿勢、目線、声量、スピード等)を意識して、音読の練習をする。 ・ペアで発表を聞き合い、気づいたことをアドバイスする。 ・グループで発表会を行う。 ・学習事項を振り返る。	ア② イ③ ウ①	・活動の観察 ・フォトニュース ・自己評価 ・他己評価
事後	・友達の作品を通して良い表現を学ぶ。	・フォトニュースを印刷し、学級へ配布する。 ・各学級の廊下にフォトニュースを掲示する。		・自己評価 ・他己評価

#### 4 本時の学習

##### (1) 本時のねらい

- ① 自分が紹介したい写真について、既習表現を活用して、聞き手を意識した構成でまとまりのある文章を書く。
- ② グループで文章をチェックし、互いの文章に感想やアドバイスを書く。
- ③ 相互交流を通して、再度文章を推敲し、文章を完成させることができる。

##### (2) 本時の授業仮説

- ① 自分の選んだ写真について、内容や構成を考えさせることで、まとまりのある文章を書くことができたか。
- ② 相互交流を通してのアドバイスを活かし、自分の文章を見直し、表現することができたか。

##### (3) 言語材料

be 動詞 (is) の肯定文・否定文, S + V + C, 一般動詞の三人称単数現在時制の肯定文・否定文, S + V + O (代名詞), 助動詞 can/can't, 疑問詞 When, 現在進行形

##### (4) 評価方法 (略)

##### (5) 本時の展開

過程	学習内容・学習の流れ	留意点	評価
導入 5分	①あいさつをする。 ②めあてを確認する。 フォトニュースの原稿を完成できる キーワード： 「聞き手を意識した構成で」「学び合い」	①"I'm fine."一辺倒にならないよう、いろいろな表現に挑戦させる。 ②自己評価表にめあてを記入させる。 ②キーワードを確認し、めあてとともに意識させる。	
展開 40分	③前時に取り組んだマインドマップの情報をもとに、写真について紹介文を書く。 ④グループ（4人グループ）内で原稿を回し読みし、アドバイスや感想等を記入する。 ⑤友達からのアドバイス等を参考に、再度原稿を練り直す。	③机間指導で個別指導をする。 ③聞き手に伝わりやすい構成を意識して書かせる。 ④グループに対して4色（赤・青・黄・緑）の付せん紙を配布（1人3枚）する。 ④1枚の付せん紙に対して1人へ、アドバイス等を書く。	③辞書を使うなどして文章を書いているか。 【ア①】 ④語順やルールに留意して、正しく英文を書くことができているか。【イ①】 ⑤語順や英文を書く時のルールに留意し、文章の構成に注意しながら、まとまりのある文を書くことができてきているか。 【イ①, ②】
まとめ 5分	⑥自己評価の記入をする。 ⑦次時の学習内容を知る。 ⑧自己評価表とワークシートを提出する。 ⑨あいさつをする。		⑥記入することで自己を振り返ることができたか。

##### (6) 本時の評価

- ① 自分が紹介したい写真について、既習表現を活用して、聞き手を意識した構成でまとまりのある文章を書くことができたか。
- ② グループで文章をチェックし、互いの文章に感想やアドバイスを書くことができたか。
- ③ 相互交流を受けて再度文章を推敲し、文章を完成させることができたか。(活動の観察, ワークシート, 自己評価表)

## 5 授業仮説の検証

本時の授業仮説について、検証授業における生徒の授業観察、ワークシート、自己評価への記述、振り返り（検証の視点をもとにした感想）をもとに考察する。

### (1) 授業仮説①について

自分の選んだ写真について、内容や構成を考えさせることで、まとまりのある文章を書くことができたか

前時で作成させたマインドマップ（資料1）を活用して文章を書かせた。その際、「まとまりのある文章」で書くことを全体で確認した。

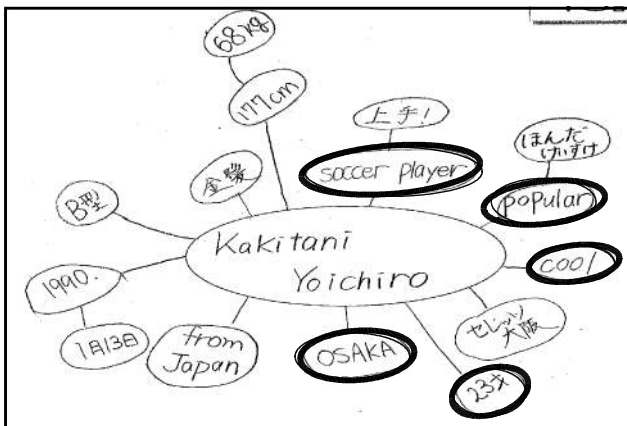
辞書等を活用して文章を書いた後、自分なりに「相手を意識した構成」で文章を並べ替え、ワークシートに順番を書かせた（資料2）。92%の生徒が順番を書くことができていたことから、自分なりに構成を考え、まとまりのある文章を書くことができたと考えられる。

### (2) 授業仮説②について

相互交流を通してのアドバイスを活かし、自分の文章を見直し、表現することができたか  
文章構成後、4名グループを編成させ、相互交流の場を設定した。

グループ内で文章を回し読みし、付せん紙にコメントやアドバイスを記入させた（資料3）。

もらったアドバイスを参考に、自分の文章を見直す時間を設定した。もう一度辞書を開いて確認する生徒、書いた文章を再度並べ替える生徒、文章を付け足す生徒等、それぞれが相互交流で得たアドバイスやヒントを参考に、自分の文章を推敲する様子が見られた（資料4）。このことから、相互交流の場でのアドバイスを活かし、自分の文章を見直し、表現することができたと考えられる。



資料1 マインドマップ

1	His name is Kakitani Yoichiro.
2	He is twenty three.
4	He is a soccer player.
3	He is from Osaka.
6	He is cool.
5	He is popular.

資料2 生徒の英文

2番と3番を逆にした方が良く思う。

マインドマップにいっぱい書いてたから、支ももとかけると思う

He is popular.の表現がいい!

資料3 相互交流で書き出したアドバイス

His name is Kakitani Yoichiro.

He is from Osaka. 入れ替え

He is twenty three years old.

He can play soccer. 追加

He is popular. 活用

He is cool.

He is a very good player.

資料4 アドバイスをもとに、推敲した英文



## V 研究の結果と考察

研究の考察は、事前（11月）・事後（2月）の実態テスト、検証授業のワークシート、自己評価等を活用して行う。

英語を書くことにおいて、基礎的・基本的な事項の定着を図り、内容や構成を考え、書く学習指導や発表の工夫を行うことは、思考力・判断力・表現力がはぐくまれることに有効であったか

### 1 1日1英文を書く活動により、基礎的・基本的な事項の定着を図ることができたか

#### (1) ワークシートの記述とアンケートから

継続して書く活動を取り入れたことで、資料5のように文構造を意識して英文を書くことができた。検証授業後のアンケートにおいて、1日1英文に取り組むことで書く力は身についたと思うかという問いに対して、「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」と答えた生徒が67%で、書く力が身についたと実感できたことは成果だと考える。

英文を書くときに意識したことは、「文を書くときのルール」、「文構造のルール」、「できるだけオリジナル」という記述があり、このことから、基礎的・基本的事項を意識し、オリジナルの英文を書こうとしたことがうかがえる。

#### (2) 実態テストの結果から

実態テストにおいて自己紹介文を書く問題を出題し、その英文数の変化を比較した（表4）。まず、無解答率が13.5%から5.4%に半減したことは、書くことに対する意欲が高まったと考える。次に、文章に占める正確な平均英文数・単語数の割合が上昇したことや、活用した文構造の平均種類数が増加したことは、基礎的・基本的事項の定着が図られた結果だと考える。また、事前テストで多く見られたスペルミスや英文を書くときのルール（文末にはピリオド、固有名詞は大文字で書き始める等）の未定着、語順の間違い等が、事後テストの結果ではいずれも減少した。さらに、既習後の助動詞can/can'tを積極的に活用して文章を書く生徒が増え、表現のバリエーションが広がっていることが分かる。

以上、(1)(2)より、1日1英文という書く学習指導を工夫したことで、基礎的・基本的事項の定着が図られたと考える。

### 2 内容や構成を考え、書く学習指導や発表の工夫を行うことは、表現を高めることに有効であったか

#### (1) マインドマップの活用から

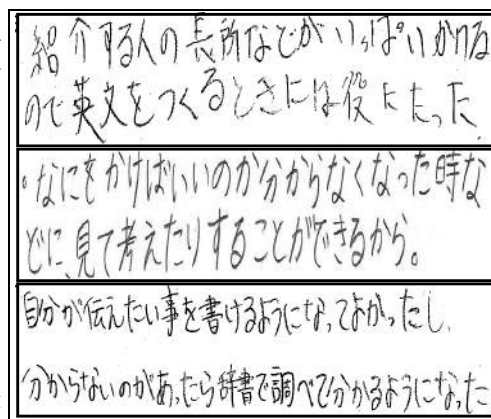
マインドマップは紹介文を書くときに役に立ったかの問いに、「役に立った」「やや役に立った」は83%だった。資料6は生徒の感想で、このことから、思考を整理し、内容や構成を考えて文章を書くための手立てとしてマインドマップを活用したことは、有効だったと考える。



資料5 1日1英文のワークシート

表4 自己紹介文の分析

	11月	2月
正確な平均英文数	2.7	3.7
正確な英文数の割合 (%)	64.5	77.4
活用した文構造の平均種類数	2.4	2.8
平均単語数	15.3	17.2
正確な平均単語数	13.8	16.6
正確な単語数の割合 (%)	90.7	96.6
無解答 (%)	13.5	5.4



資料6 マインドマップを活用後の感想

(2) 相互交流を通して

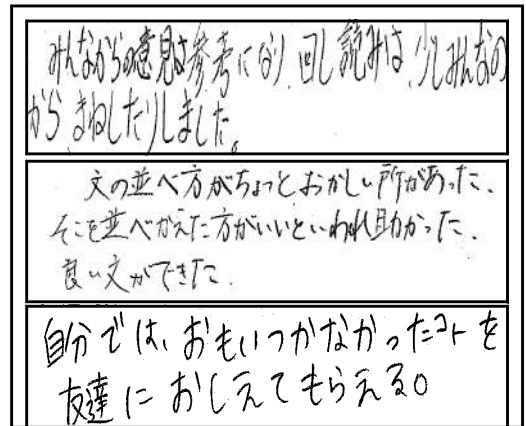
アンケートにおいて、クラスメイトからもらったコメントやヒントは、自分の紹介文を見直すときに参考にしたかという問いに対して、「参考にした」「少し参考にした」は合わせて95%となった。資料7は、相互交流をした感想である。その他、「自分が間違っているところを書いてもらって、次からこうしよう!と思った」「間違ってる所を教えてもらったり、いい文を褒めてもらえたりしたから」「どうすれば相手によく伝わるかが分かった」等のコメントから、相互交流を通して学び合えたことが伺える。資料8は、生徒の作品である。マインドマップで思考を整理し、自分なりに文章を組み立て、相互交流で受け取ったアドバイスをもとに文章を推敲し、聞き手を意識した構成で、作品を仕上げることができた。

自己評価では、「相手に伝わるような構成で書いた」「どちらかと言えば書いた」生徒は87%となった。

思考力・判断力・表現力の育成には時間を要するので、相手に効果的に伝わるような構成を意識させて書く言語活動に長期的・計画的に取り組む必要がある。

(3) 実態テストの結果から

自己紹介文の構成の変化(図2)を比較したところ、「3文以上書いてあり、文章の内容のつながりがよい文章」は、46%(事前)から59%(事後)に増加した。資料9は、ある生徒の事前と事後の自己紹介文である。事前の構成は、文と文のつながりがなく、話題が脱線し、構成を意識して書いているとは評価しにくい。それが事後においては、文と文のつながりが良く、話題に一貫性がある内容にまとめることができている。これは、単に文章を書くのではなく、相手を意識して文章の順番を考え、まとめるという手順をふんだ成果だと考えられる。言い換えれば、これまでは相手に伝わるような構成を意識して文章を書く視点が弱かったが、検証授業において、相手を意識し、伝わりやすい文の順番を考えた。さらに相互交流で友達から気づきを得て、自分の文章を見直すという一連の学習を通して、相手に伝わりやすい構成を意識し、まとめた内容を書くことができるようになったと考えられる。思考や判断は目には見えないが、思考・判断した結果、表現として現れてきたこの作品を見ると、生徒に思考力・判断力・表現力が芽生えてきたことがうかがえる。



資料7 相互交流の感想



- 構成：①あいさつ  
②紹介  
③本人との関係  
④写真を撮ったときの年齢  
⑤今の年齢  
⑥するスポーツ  
⑦好きな食べ物  
⑧あいさつ

あり、文と文につながりがあり、一貫性がある。

資料8 生徒作品(フォトニュース)

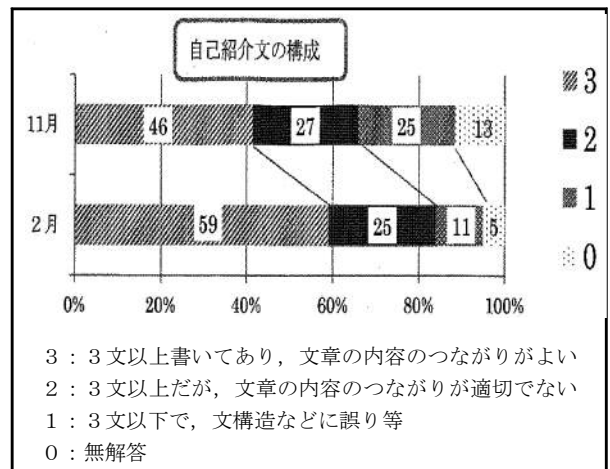


図2 実態テストの結果

文章の内容のつながりが適切でない、文構造に誤りがある、無解答の計41%の生徒への十分な手立ての必要性が挙げられる。相手に効果的に伝わるような構成を意識させて書く言語活動を長期的に計画し、実行していくことと、個人の習熟に合わせた指導を継続して行うことが必要だと考えられる。

自己紹介文 (11月)		検証授業を経て	自己紹介文 (2月)	
① My name is [redacted]		① My name is [redacted]	↑ 関連 ↓	
② I like animal.		② I'm from Okinawa.		
③ I like pizza.		③ I live in Gushikami.	↑ 関連 ↓	
④ I have a dog.		④ I like animal.		
⑤ Nice to meet you.		⑤ I have a dog.	⑥ Thank you.	
構成	分析	構成	分析	
①名前 ②動物が好き ③ピザが好き ④ペットを飼っている ⑤あいさつ	好きなものを単純に羅列しており、文と文につながりがなく、一貫性がない。	①名前 ②出身地 ③住所 ④動物が好き ⑤ペットを飼っている ⑥あいさつ	関連した内容を2文ずつ構成したことで、文と文につながりがみられ、一貫性がある。	

資料9 自己紹介文の構成の変容

## VI 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

- (1) 1日1英文を継続的に取り入れたことで、書くことに対する抵抗感をやわらげ、基礎的・基本的事項の定着を図ることができた (V-1-(1))。
- (2) マインドマップを活用したことで、生徒の思考を整理し、内容や構成を考え、文章を書くことができた (V-2-(1))。
- (3) フォトニュースを書くときに相互交流の場を設定したことにより、聞き手を意識した構成にまとめることができ、思考力・判断力・表現力をはぐくむことにつながった (V-2-(2))。

### 2 研究の課題

- (1) 書くことに対する抵抗感を減らすための、継続的な言語活動の充実 (V-1-(1))。
- (2) 基礎的・基本的事項の定着と言語活用のための指導の充実 (V-2-(2))。
- (3) 「書くこと」における系統立てた言語活動の指導計画および継続的な指導 (V-2-(2))。
- (4) 個に応じた指導の充実と評価の工夫 (V-2-(3))。

### 《主な参考文献》

トニー・ブザン	『勉強が楽しくなるノート術』	ダイヤモンド社	2006年
文部科学省	『中学校学習指導要領解説 外国語編』	開隆堂	2008年
中央教育審議会	「児童生徒の学習評価の在り方」(報告)		2010年
平田和人編著	『中学校新学習指導要領の展開 外国語科英語編』	明治図書	2010年
沖縄県教育委員会	『夢・にぬふぁ星プランⅡ』補完版		2011年
沖縄県教育委員会	沖縄県学力向上主要施策「夢・にぬふぁ星プランⅢ」		2011年
国立教育政策研究所	『評価基準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校外国語』		2011年
横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校	『思考力・判断力・表現力等を育成する指導と評価』	学事出版	2011年
国立教育政策研究所教育課程研究センター	特定の課題に関する調査(英語:「書くこと」)調査結果(中学校)』		2012年
文部科学省	『言語活動の充実に関する指導事例集 ～思考力, 判断力, 表現力などの育成に向けて～中学校版』	教育出版	2012年